

ことば つむ ころ そだ 言葉を紡いで心を育て

学校長 森 愛子

昨年さくねんどの話はなしになりますが、卒業式そつぎょうしき間近まぢかの6年生ねんせいに読み聞かせボランティアの皆様みなさまから素敵なプレゼントがありました。最後の読み聞かせということで、音楽室おんがくしつにて、「少年しょうねん 老い易く学成り難し 一寸の光陰こういん 軽んずべからず」などの漢詩の朗読と吟詠を聴き、意味を教えていただきました。その後、私も仲間に入り「ゆずり葉」の群読をしました。卒業生に向けてのメッセージのこもった内容であり、国語の学習内容にも合うものでした。聴き入っている子ども達の様子を微笑ましく思いつつ、読み聞かせボランティアの皆様みなさまの識見の高さにも感心しておりました。そして、最後に6年間に読んでいただいた本の題名が載っているブックリストをいただきました。「これ、覚えている。」と懐かしい本の題名を口にする時の顔は、小さい頃こころに戻っているかのようでした。

本校では、読み聞かせボランティアの皆様みなさまに1年生から6年生まで、月に2、3回学年に応じた本を読んでいただいています。想像力を豊かにする、知識や語彙を増やす、など読書の効果は多岐に渡りますが、読み聞かせでは、読み手との関わりの中で心も育てていくことができるのだと実感した瞬間でした。

また、本校では、家庭学習に音読を取り入れています。こちらは、お家の方などを相手に子ども達が「読み聞かせ」をすることになります。ご多用の中、なかなか「宿題を見てあげられない」というお声も聞かれますが、音読でしたら、家事の合間や手を動かしながら聞くこともできます。しっかり向き合っむて聞いてあげたいという方もいらっしゃることでしょううけれど、片手間でも聞いてあげるだけで十分です。初めはたどたどしく読んでいても、続けているうちに必ず上達します。うまくいかない時は誉める必要はありません。続けて聞いていれば、できるようになったときに変化に気づきます。その時はぜひ、しっかりと誉めてあげてください。お子さんは、音読することが楽しくなります。自分の音読に耳を傾けてもららう時間を楽しみにするようになります。そして、勉強も好きになります。すらすら読める子、ゆっくり読む子、読み方はそれぞれ違っていいのです。続けることが大切たいせつです。

今週の朝会で、「子ども読書の日」に因み、恒例の校長による読み聞かせをしました。ボランティアの皆さんに負けないようにと、久しぶりに音読練習をして臨んだのですが、声に出して読むことでより深く読み取ることができることを再確認しました。

ぜひ、お子さんの音読を聞いてあげてください。また、一人で読める年齢になっても読み聞かせは心地よいものです。寝る前のひととき、読み聞かせはいかがでしょう。